

(仮称) 希望丘青少年交流センター 運営のあり方検討委員会報告

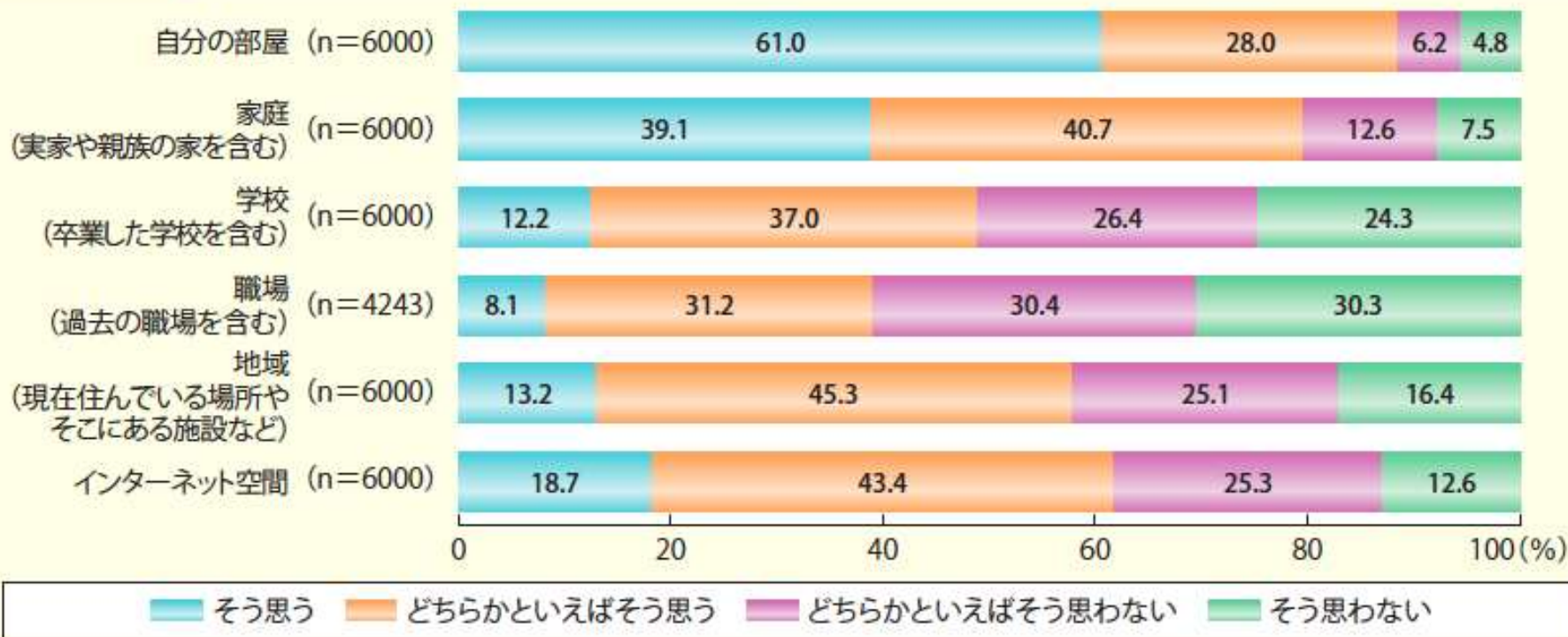
委員長 吉永真理@昭和薬科大学

若者の参画による、若者の居場所の創設と運営がなぜ必要か・・・

- 居場所ってなに？（落ち着ける安心できる場、自分が自由に好きなようにいられる場、ひとりでもいられる場）
- 学校にも家庭にも「居場所」がない
- 多様な若者が居られる、多様な居場所が必要
- 自分たちで考え計画し、運営することの重要性
- 居場所には見守る大人がいる

15-29歳 6000人の調査結果 (内閣府)

図表2 居場所の有無



(注) 1. 「職場 (過去の職場を含む)」は就業経験者のみ回答。
 2. グラフでは、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」それぞれの回答率について、小数点以下第2位を四捨五入しているため、両者を合わせた回答数の回答率とは合わない場合がある。

平成29年版子供・若者白書(2017.6)

特集：若者にとっての人とのつながり

1) 意識調査概要

若者の居場所、他者とのつながりの状況

居場所及びつながりの重要性

どのような若者が孤立しがちなのか

2) 孤立を防ぐ手だて

田奈高校「ぴっかりカフェ」：学校内の居場所で地域とつながる

会員制居酒屋（山形）：ジョブトレーニング

子供食堂（兵庫）：多世代が集う食堂

若者の孤立を防ぐためには

- ◆経済的な支援、就労支援に加えて、孤立から守り、成長を支援する**居場所とつながり**を創り出す**取り組み**が必要
- ◆地域団体・市民活動団体による寄り添い型のきめ細やかな**取り組み**が必要である

寄り添うこと&つなぐこと

自分たちで創る、運営する



既存の青少年交流センター

報告書P 3

- 池之上青少年会館
- 地域から愛され若者が主体的に活動できる場
- 児童館（中高生支援館）や青少年交流センターによる支援機能の取りまとめ等を担う中核施設
- 野毛青少年交流センター
- 若者たちの「やってみたい！を応援するベースキャンプ」
- 豊かな自然環境の中にある静かな立地や多機能な施設特性
- 子ども・若者の学びや多世代交流の推進につながる広域的な交流施設

理念とコンセプト

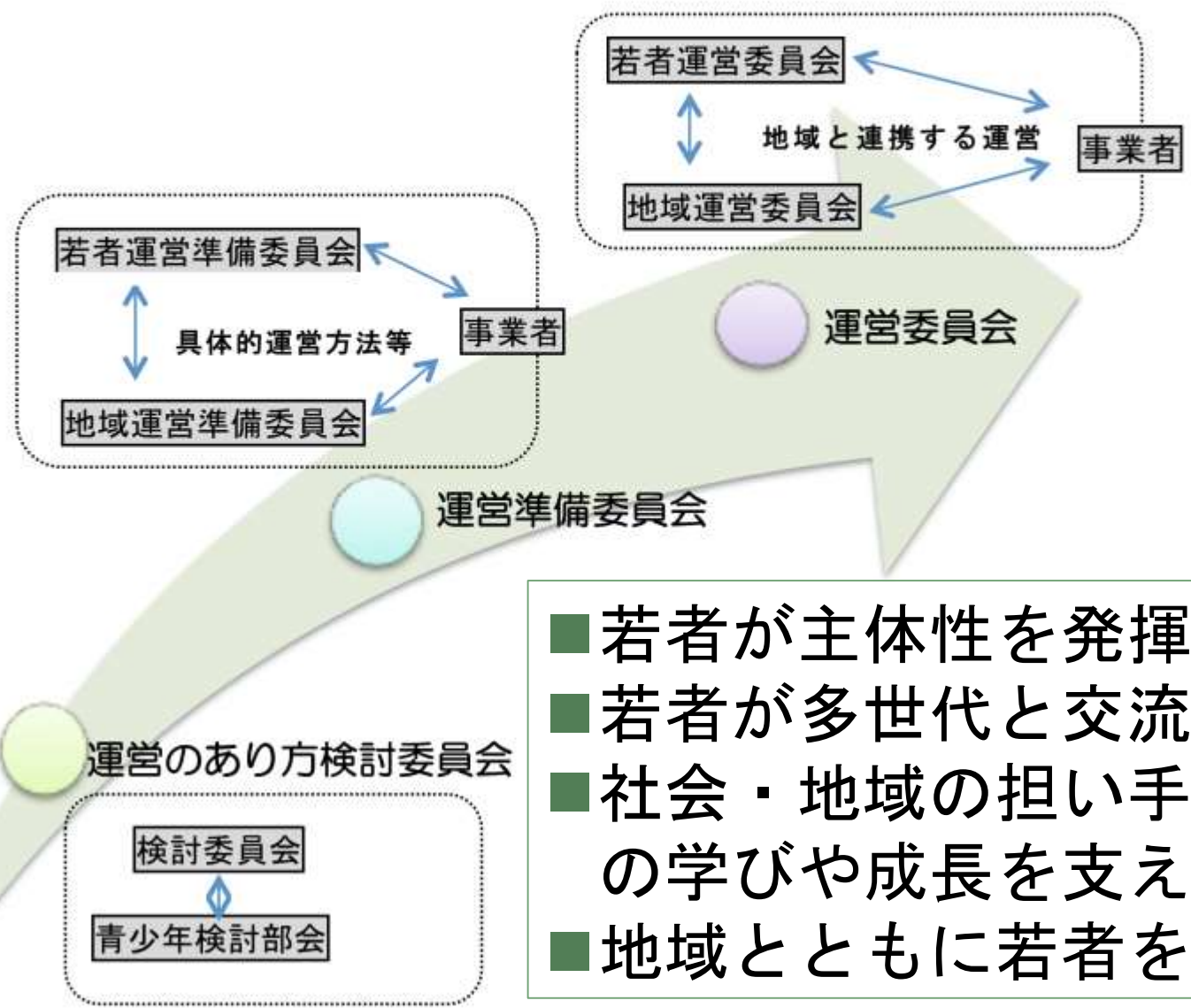
報告書P 4～7

「複合施設基本構想」における青少年交流センターの整備にかかる理念（平成27年3月策定）

- ①多世代と交流できる施設づくり
- ②次代の担い手として成長する拠点づくり

「希望丘青少年交流センター青少年建設構想委員会」による施設づくりにあたってのコンセプト

- ①青少年が主体となれる場
- ②多目的に活用しやすい場
- ③多世代で交流できる場



- 若者が主体性を発揮できる場
- 若者が多世代と交流できる場
- 社会・地域の担い手としての若者の学びや成長を支える場
- 地域とともに若者を支え育てる場

青少年が主体となれる場： どんな若者が利用する？

報告書P 9～10

- 利用者の中心は中高生世代以降の若者
- 多様な特徴や特性を持った若者が、自由にのびのびと利用する
- 親や先生以外の大人と出会い、いろいろな仲間とつるんで遊ぶ時間や空間がある
- 意見を述べて、大人と対等にやりとりして地域で関わる活動をする機会がある
- 若者が中心となって運営し、のびのび、自由に利用する

どのような場？自己形成の場

報告書P 1 1～1 2

- 目的や課題を問わず「とりあえず面白そうだから行ってみること」を拒否されず、誰もが受け入れられる場
- 排除の論理を排除し、ここには、いつでも誰でも来てよいのだと感じさせる場
- 特に予定ややりたいことが無く、ふらっと立ち寄ったときにも、ありのままの自分を認められる場
- 親や友達には話しにくいことでも、信頼できる人にただ話を聴いてもらうだけでも安心でき、心強く思う場
- 参加しないことも尊重される場

どのような場？

(結果的に) 多世代交流の場となる

報告書P 13～14

- 多様な人と出会い、関わり、協働できる場
- 活動の中で自然に交流できる場
- 隣接する他施設と活発に往来し、やりとりできる場

多目的に利用できる場：若者が利用しやすい魅力的な場とは？

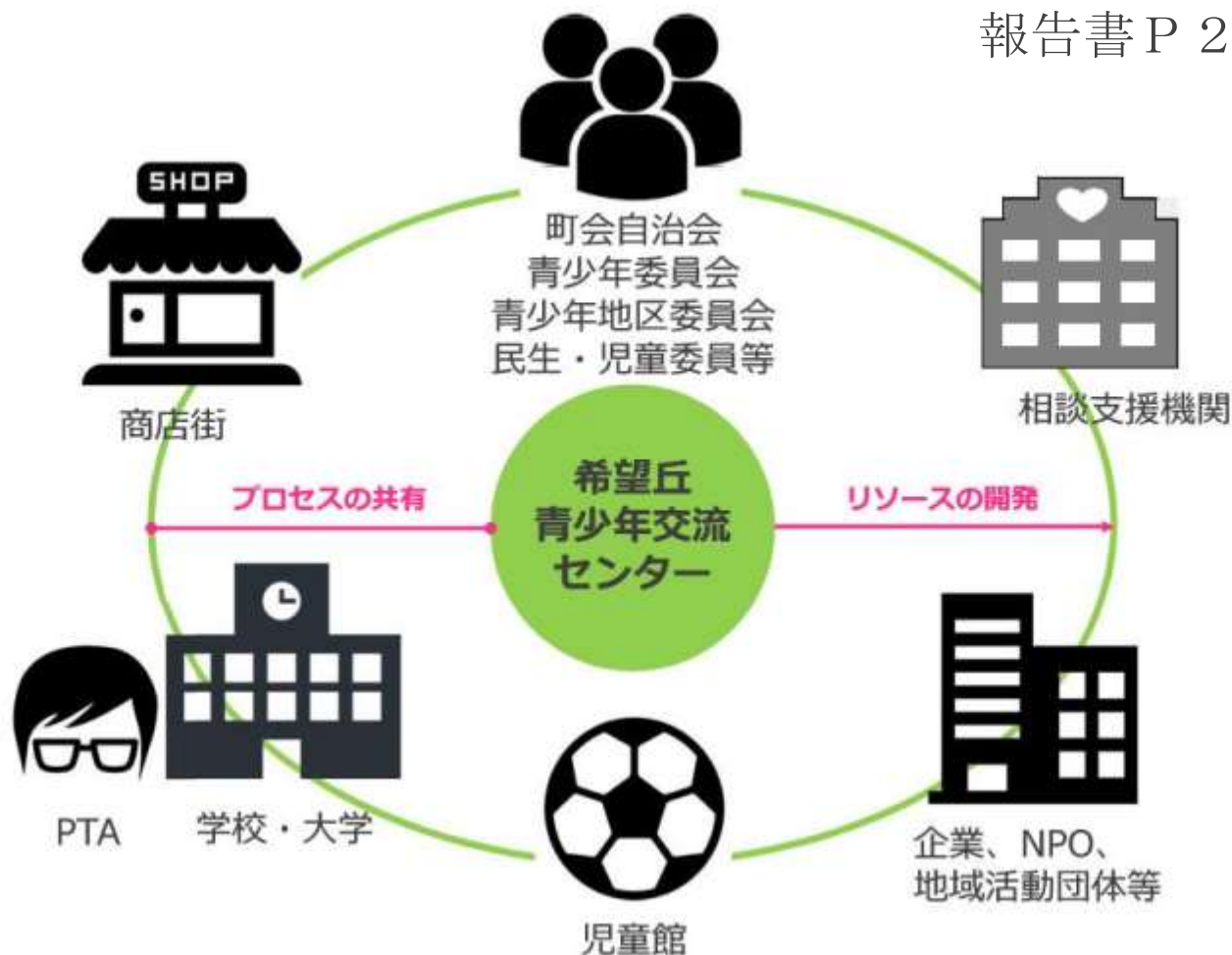
報告書P 15～21

- 若者が自由に施設を利用できること
- 一般の人と一緒に使うために
- 行きたい時、居たい時に開いている
- プロジェクトのあり方

地域や大人とのつながり

地域の特徴である子どもや若者を支え、受け止めてくれる人たちとのつながりを大切に

報告書P 22～23



運営の仕方：若者や地域の意見を反映する体制づくり

報告書P 24～26

- 若者運営委員会
- 地域運営委員会
- 運営事業者
- 運営に協力いただく地域の方々
- 大学生のボランティア

地域懇談会、
若者相談支援機関との連携連絡会
複合施設全体の運営会議

専門的な相談支援機関との連携

報告書P 27

- センターは、思春期～青年期の葛藤や悩みを気楽に相談できる場
- 必要があれば、専門的な支援機関を紹介され、つないでもらえる場
- 施設内のホットスクールとの連携
- 支援機関のサポートのもとで、ピア・サポート活動の展開も？

センターに必要な職員とは どんな人？

- 信頼できる大人であること
- 話を聞いてくれる人、見守ってくれる人
- 深刻な悩みのおきに助けてくれる専門的な知識やスキルを持った人
- 盾になってくれる大人
- 傾聴力や共感力がある人
- 経験や専門性がある人
- マッチングのできる人

報告書P 28～29

まとめ

報告書P 30

- 利用したい人が利用できる場をつくる
- 若者と地域の意見を反映できる体制とする
- 自己形成空間としての場として機能出来るよう、信頼できる大人とともに、専門性を持つスタッフが他機関との連携も視野に入れて受容につとめる。
- 若者同士が育ち合う場であるために、相互に支え合うピア・サポートができてくることが望ましい
- ボランティアとしての役割だけではなく、ときには単なる利用者として過ごせるような、受容的で柔軟な場として運営されることが不可欠である

まとめ（その2）

報告書P 30

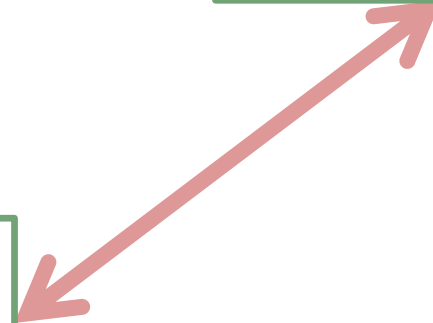
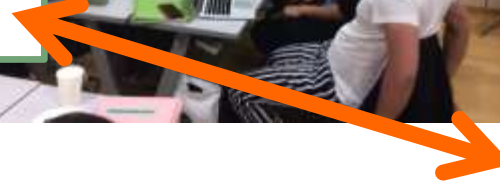
- 若者運営委員会、地域運営委員会、事業者の三者の協働で運営を担い、三者からなる運営委員会が総括的な役割を担う形態が望ましい
- 区内の3館の青少年交流センターは相互に連携し、それぞれの特徴のある運営形態や実施事業の内容について、意見交換をしたり、一緒に研修を受けて、交流を図りながら、支え合い、人材育成を行なう

三角形で運営！

若者運営委員会

事業者

地域運営委員会



- 宇佐美 全区的な施設 生きづらさを抱えた若者も元気な若者も
- 佐藤：この地域 まちの人から愛される施設に
- 明石：全区という立場で。いろいろなところから子供が集まってくるような素晴らしい場に
- 新井：居場所を必要としている若者がたくさんいる
- 金子：5年経つと若者は成長してしまう。変わらないのは地域。地域が安定しているから学校が安定する。
- 平野：行事が盛んで中学生が活躍できる地域。参加できない子どももいる。ぶらりと寄れる場に
- 菅野：忙しい中学生は家と学校の往復。部活のない日、再登校の日、宿題を教えてもらえる、自分が大学生になったら教える側になって参加する・・・というイメージ
- 三輪：25万人プレーパークには来る。サポートや支援…自分で決めていい、失敗してもいい、そのときに私たちの出番、それが支援やサポート
- 佐藤館長：地域ごとにふさわしい形がある。一緒になって作っていく。成果はどこではかるかむずかしい、交流したい
- 松井（船橋児童館）：中庭で小学生から高校生まで一緒に遊んでいる、他では見られない、オルパを見て衝撃、児童館の中での高校生の姿が全然違う、アイデアがいっぱい。高校生の居場所になってほしい。
- 妹尾：私たちの時代がちがう。親の方針が一番だったけど…地域であたたかく支えたい。行く場所がない子の安らぎになる場所に